

* 課題番号	個 07-051
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 10 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 張 喬 森



所属・資格 商業学科・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	半導体産業における中国の対内直接投資 - 台湾企業を中心																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Joseph Chiao-sen Chang</td> <td>East-West Center</td> <td>Taiwan's Deeper Interdependence with China : Shared Prosperity</td> <td>Mar. 10, 2009</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Research Program</td> <td>or Fatal Attraction</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>Seminar on</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>Economics</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Joseph Chiao-sen Chang	East-West Center	Taiwan's Deeper Interdependence with China : Shared Prosperity	Mar. 10, 2009		Research Program	or Fatal Attraction			Seminar on				Economics																						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
Joseph Chiao-sen Chang	East-West Center	Taiwan's Deeper Interdependence with China : Shared Prosperity	Mar. 10, 2009																																									
	Research Program	or Fatal Attraction																																										
	Seminar on																																											
	Economics																																											
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の (◎・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個07-052
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 9 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 Bytheway, Simon James

所属・資格 商学部・準教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	Autonomy through Dependence: the paradoxes and challenges of financial policy in Meiji Japan			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Simon James Bytheway	<u>People, Place and Power</u>		2009年4月	Black Swan Press
(with Micheal Schiltz)	(edited by D. Bennett, J. Earnest and M. Tanji)			Perth
	<u>The Dynamics of <i>wakon yōsai</i> ('Japanese spirit, Western technology'):</u>			
	<u>The paradoxes and challenges of financial policy in an industrializing Japan, 1854-1939</u>			

※ホームページ等での公開の 可 / 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個07-053
------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年2月18日

日本大学 総長 殿

氏名 劉 慕和



所属・資格 商学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <u>一般研究(個人)</u> / 一般研究(共同) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	監査委員会と財務報告の質についての研究																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																										
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>劉 慕和</td> <td>コーポレート・ガバナンスとアーニングス・マネジメント</td> <td>第16号</td> <td>20年12月</td> <td>総合研究所報・青山学院大学総合研究所</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	劉 慕和	コーポレート・ガバナンスとアーニングス・マネジメント	第16号	20年12月	総合研究所報・青山学院大学総合研究所																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
劉 慕和	コーポレート・ガバナンスとアーニングス・マネジメント	第16号	20年12月	総合研究所報・青山学院大学総合研究所																														

※ホームページ等での公開の(可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			


* 課題番号	個 07-054
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年3月11日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 清 水 正 

所属・資格 芸術学部文芸学科・教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> <u>一般研究(個人研究)</u> / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																													
2	研究課題	十九世紀ロシア文学が日本の近・現代の文学者（詩人、小説家、批評家）に与えた影響																																														
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）																																														
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">発表者名</th> <th style="width: 25%;">学会名</th> <th style="width: 25%;">発表テーマ</th> <th style="width: 25%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																													
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 30%;">著書名・雑誌名／論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 30%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>清水 正</td> <td>藝文叢「椎名麟三とドストエフスキー」 (98頁～117頁)</td> <td>13号</td> <td>2008年2月</td> <td>日本大学大学院芸術学 研究科文芸学専攻</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	清水 正	藝文叢「椎名麟三とドストエフスキー」 (98頁～117頁)	13号	2008年2月	日本大学大学院芸術学 研究科文芸学専攻																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																												
清水 正	藝文叢「椎名麟三とドストエフスキー」 (98頁～117頁)	13号	2008年2月	日本大学大学院芸術学 研究科文芸学専攻																																												

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			


* 課題番号	個 07-055
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22年 4月 8日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 _____ 桑 原 淳 司 
 所属・資格 _____ デザイン学科・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	新しいこどもの遊び環境のための環境遊具の開発と研究																																				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究代表者 ・ 研究分担者 (役割分担) 																																				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">発表者名</th> <th style="width: 20%;">学会名</th> <th style="width: 40%;">発表テーマ</th> <th style="width: 20%;">発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桑原 淳司</td> <td>こども環境学会</td> <td>遊び環境を改善するための新たな遊具 デザインの方法及び提案 <i>Moblie Fun 提案</i></td> <td>平成 22年 4月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	桑原 淳司	こども環境学会	遊び環境を改善するための新たな遊具 デザインの方法及び提案 <i>Moblie Fun 提案</i>	平成 22年 4月																											
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																		
桑原 淳司	こども環境学会	遊び環境を改善するための新たな遊具 デザインの方法及び提案 <i>Moblie Fun 提案</i>	平成 22年 4月																																		
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; font-size: small;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">著者・執筆者</th> <th style="width: 30%;">著書名・雑誌名／論文名</th> <th style="width: 10%;">巻・号</th> <th style="width: 10%;">年月</th> <th style="width: 30%;">出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																	

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
<p>その他に記載した結果から、改良点としてフラッシュパネルなどへの変更やアルミ製ジョイントなどにすれば、軽量化ができ、こども達の参加も期待できる。より軽量化を行うことによって、さらなる利用を促せるものと判断されたため、継続的な研究として推し進める。</p>			
(その他)			
<p>名称をMobile Funとしたこの遊具は、既製品の遊具類とは異なり、運動機能を促進するような器具が一切ないが、その試作・試用結果では、こども達は自由に遊びを工夫し、自らMobile Funを好みの場所まで移動させては遊びを繰り返し広げる行動が見られた。あそび行動を活性化させるために本体そのものが移動することの有効性を見いだすことができた。</p>			

* 課題番号	個 07-056
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 3月 31日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 佐藤 徹



所属・資格 芸術学部・デザイン学科・准教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 環境型社会対応機器の研究「太陽光発電（ソーラーパネル）を利用した製品のデザイン開発」		
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）		
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）		
	発表者名	学会名	発表テーマ
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）		
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号
			年月
			出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
佐藤 徹	ソーラーパネル充電器 「Eco tree」	展示:「プロと卵のエコデザイン展 2007」2007年11月8日~11月20日 新 宿リビングデザインセンターリビング デザインギャラリーにて開催	デザインモデル 1 セット+展示パネ ル
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他) JIDA (日本工業デザイナー協会) 研究会、 環境委員会が主催・運営するホームページ http://www.marucan.jp/ にて作品掲載による成果報告および展示会の詳細をお知らせしているが、訪問数は非常に多く エコ関連の HP の中でも比較的、注目度の高いサイトとなっている。			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 27 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 伊藤 賢一



所属・資格 理工学部一般教育・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	植物培養細胞を生体触媒として用いた環境に受容的な有用物質変換反応に関する研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
伊藤賢一・中村薫・酒巻弘・宇月原貴光・堀内昭	日本化学会第88春季年会(2008)	ダークオパールバジルおよびスイート・バジル培養細胞による1-フェニルエタノール類の立体選択的酸化反応	平成20年3月28日	
K. Ito, K. Nakamura and H. Sakamaki	biocat 2008	Stereoselective Oxidation of Racemic 1-Aryl ethanols by Plant Cultured Cells of Basil	8/31-9/4, 2008	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
K. Itoh, K. Nakamura, T. Utsukihara, H. Sakamaki and C. A. Horiuchi	Stereoselective oxidation of racemic 1-arylethanols by basil cultured cells of <i>Ocimum basilicum</i> cv. <i>Purpurascens</i>	30・5	2008・5	Biotechnology Letters

※ホームページ等での公開の(可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得) 特になし			
(外部資金の獲得) 特になし			
(他の研究への発展) 2009年度に本成果をもととして、数人の共同研究者で日本大学工学部特別推進研究費に応募し、特別推進研究Bに採択された。			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日本大学 総長 殿

氏 名 鈴木 徳一



所属・資格 理工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	複雑ネットワーク理論を用いた地震現象の研究																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴木徳一</td> <td>第5回 ネットワーク生態学シンポジウム</td> <td>地震の複雑ネットワークのダイナミカルな発展</td> <td>2009年3月</td> </tr> <tr> <td>阿部純義・鈴木徳一 (登壇者 鈴木)</td> <td>日本物理学会</td> <td>地震の複雑ネットワークにおけるスケーリング関係式</td> <td>2008年9月</td> </tr> <tr> <td>阿部純義・鈴木徳一 (登壇者 鈴木)</td> <td>European Seismological Commission ESC 2008</td> <td>The concepts of complex network advance understanding of earthquake science</td> <td>2008年9月</td> </tr> <tr> <td>阿部純義・鈴木徳一 (登壇者 鈴木)</td> <td>日本物理学会</td> <td>地震の複雑ネットワークにおけるクラスター係数のダイナミカルな発展</td> <td>2007年9月</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	鈴木徳一	第5回 ネットワーク生態学シンポジウム	地震の複雑ネットワークのダイナミカルな発展	2009年3月	阿部純義・鈴木徳一 (登壇者 鈴木)	日本物理学会	地震の複雑ネットワークにおけるスケーリング関係式	2008年9月	阿部純義・鈴木徳一 (登壇者 鈴木)	European Seismological Commission ESC 2008	The concepts of complex network advance understanding of earthquake science	2008年9月	阿部純義・鈴木徳一 (登壇者 鈴木)	日本物理学会	地震の複雑ネットワークにおけるクラスター係数のダイナミカルな発展	2007年9月																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
鈴木徳一	第5回 ネットワーク生態学シンポジウム	地震の複雑ネットワークのダイナミカルな発展	2009年3月																																									
阿部純義・鈴木徳一 (登壇者 鈴木)	日本物理学会	地震の複雑ネットワークにおけるスケーリング関係式	2008年9月																																									
阿部純義・鈴木徳一 (登壇者 鈴木)	European Seismological Commission ESC 2008	The concepts of complex network advance understanding of earthquake science	2008年9月																																									
阿部純義・鈴木徳一 (登壇者 鈴木)	日本物理学会	地震の複雑ネットワークにおけるクラスター係数のダイナミカルな発展	2007年9月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿部純義・鈴木徳一</td> <td>PhysicaA / Scaling relation for earthquake networks</td> <td>388・12</td> <td>2009年2月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td>阿部純義・鈴木徳一</td> <td>PhysicaA / Violation of the Scaling Relation and Non-Markovian Nature of Earthquake Aftershocks</td> <td>388・9</td> <td>2009年2月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td>阿部純義・鈴木徳一</td> <td>Proceeding of European Seismological Commission ESC 2008 / The concepts of complex network advance understanding of earthquake science</td> <td></td> <td>2008年9月</td> <td>European Seismological Commission</td> </tr> <tr> <td>阿部純義・鈴木徳一</td> <td>The European Physical Journal B / Dynamical evolution of clustering in complex network of earthquakes</td> <td>59</td> <td>2007年10月</td> <td>EDP Sciences</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	阿部純義・鈴木徳一	PhysicaA / Scaling relation for earthquake networks	388・12	2009年2月	Elsevier	阿部純義・鈴木徳一	PhysicaA / Violation of the Scaling Relation and Non-Markovian Nature of Earthquake Aftershocks	388・9	2009年2月	Elsevier	阿部純義・鈴木徳一	Proceeding of European Seismological Commission ESC 2008 / The concepts of complex network advance understanding of earthquake science		2008年9月	European Seismological Commission	阿部純義・鈴木徳一	The European Physical Journal B / Dynamical evolution of clustering in complex network of earthquakes	59	2007年10月	EDP Sciences															
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								
阿部純義・鈴木徳一	PhysicaA / Scaling relation for earthquake networks	388・12	2009年2月	Elsevier																																								
阿部純義・鈴木徳一	PhysicaA / Violation of the Scaling Relation and Non-Markovian Nature of Earthquake Aftershocks	388・9	2009年2月	Elsevier																																								
阿部純義・鈴木徳一	Proceeding of European Seismological Commission ESC 2008 / The concepts of complex network advance understanding of earthquake science		2008年9月	European Seismological Commission																																								
阿部純義・鈴木徳一	The European Physical Journal B / Dynamical evolution of clustering in complex network of earthquakes	59	2007年10月	EDP Sciences																																								

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展) ランダム行列理論を用いた地震活動の研究			
(その他)			

* 課題番号	個 07-060
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 3 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 高橋正行



所属・資格 理工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	階段状水路における空気混入流の特性に関する研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
笠原政人、神谷慶一、曾根田基仁、高橋正行、安田陽一、大津岩夫	日本大学理工学部、第 51 回日本大学理工学部学術講演会	階段状水路における skimming flow の空気混入流特性	2007 年 12 月	
笠原政人、高橋正行、大津岩夫	日本大学理工学部、第 52 回日本大学理工学部学術講演会	Skimming flow の空気混入流特性に対する水路傾斜角度の影響	2008 年 11 月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可)・ (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

*課題番号 個 07 - 061

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 小 早 川 悟



所属・資格 理工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目		奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究		注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題 都市交通政策における駐車管理に関する研究				
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）				
・研究代表者 小早川悟				
・研究分担者（役割分担） なし				
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
長谷川大悟・小早川悟・高田邦道	第 62 回土木学会年次学術講演会	道路交通法改正に伴う路上駐車の変化	平成 19 年 9 月	
長谷川大悟・宇多俊雄・小早川悟・高田邦道	第 36 回土木計画学研究・講演会	道路交通法の改正に伴う路上駐車実態の変化について－特に、貨物車に注目して－	平成 19 年 11 月	
長谷川大悟・小早川悟・高田邦道	第 38 回土木計画学研究・講演会	違法駐車取り締まり民間委託制度導入後の路上駐車車両の特性	平成 20 年 11 月	
小早川悟・高田邦道	第 64 回土木学会年次学術講演会	駐車監視員制度導入がポケットローディング利用へ与えた影響分析	平成 21 年 9 月 (投稿中)	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
小早川悟・長谷川大悟・高田邦道	交通科学／違法駐車取り締まり民間委託制度導入後の路上駐車実態分析－東京都内の幹線道路を対象として－	Vol. 38, No. 2	平成 20 年 4 月	大阪科学研究会

※ホームページ等での公開の(可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-062
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 / 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 宇於崎 勝也



所属・資格 理工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="radio"/> 奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	近代日本における「都市計画家の誕生期」に関する研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
宇於崎 勝也	日本大学理工学部学術講演会	都市計画家集団 都市研究会 (1917.10 ~ 1946.9) について 「都市計画家の誕生期」に関する研究	2007年12月	
宇於崎 勝也	日本大学理工学部学術講演会	(旧) 都市計画法の制定と佐野利器博士 (1880.4~1956.12) の「都市計画」について 「都市計画家の誕生期」に関する研究	2008年11月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
なし				

※ホームページ等での公開の (可) / (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>なし</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p> <p>なし</p>			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>日本学術振興会「科学研究費補助金」への申請</p>			
<p>(その他)</p> <p>なし</p>			

* 課題番号	個 07-063
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 10日

日 本 大 学 総 長 殿

氏名 桜井 慎一



所属・資格 理工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="radio"/> 奨励研究 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	地元との協調を志向するサーフィン関連空間の整備と管理の研究																																									
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																									
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>桜井慎一、藤田康太郎</td> <td>日本沿岸域学会 (研究討論会 2008)</td> <td>地元との協調を志向するサーフィン利用空間の整備と管理</td> <td>平成 20 年 7 月 19 日</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	桜井慎一、藤田康太郎	日本沿岸域学会 (研究討論会 2008)	地元との協調を志向するサーフィン利用空間の整備と管理	平成 20 年 7 月 19 日																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																							
桜井慎一、藤田康太郎	日本沿岸域学会 (研究討論会 2008)	地元との協調を志向するサーフィン利用空間の整備と管理	平成 20 年 7 月 19 日																																							
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																						

※ホームページ等での公開の (何) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

*課題番号	個 07-064
-------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 吉田 幸司



所属・資格 理工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	高電圧放電を用いた拡散燃焼に関する実験的研究																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Koji Yoshida et al.</td> <td>4th PACME</td> <td>New Concept Combustion Method -The Diffusive Combustion Using Electrical Discharge-</td> <td>平成19年8月</td> </tr> <tr> <td>Koji Yoshida et al.</td> <td>Small Engine Technology Conference SETC2007</td> <td>Study of Diffusion Combustion by Using the High-Voltage Electrical Discharge</td> <td>平成19年10月</td> </tr> <tr> <td>吉田幸司</td> <td>第16回微粒化シンポジウム</td> <td>高電圧放電による燃料噴射と拡散燃焼の発生</td> <td>平成19年12月</td> </tr> <tr> <td>吉田幸司他</td> <td>2007年度自動車技術会関東支部学術研究講演会</td> <td>新燃焼方式の提案 -高電圧放電による拡散燃焼-</td> <td>平成20年3月</td> </tr> <tr> <td>吉田幸司他</td> <td>日本機械学会 2008年度年次大会 No. 08-1</td> <td>高電圧放電を利用した拡散燃焼に関する研究</td> <td>平成20年8月</td> </tr> <tr> <td>吉田幸司他</td> <td>第46回燃焼シンポジウム</td> <td>高電圧放電による燃料噴射と着火</td> <td>平成20年12月</td> </tr> <tr> <td>吉田幸司他</td> <td>2008年度自動車技術会関東支部学術研究講演会</td> <td>高電圧放電を利用した拡散燃焼に関する研究 -燃料性状及び分子構造が燃焼に与える影響-</td> <td>平成21年3月</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Koji Yoshida et al.	4th PACME	New Concept Combustion Method -The Diffusive Combustion Using Electrical Discharge-	平成19年8月	Koji Yoshida et al.	Small Engine Technology Conference SETC2007	Study of Diffusion Combustion by Using the High-Voltage Electrical Discharge	平成19年10月	吉田幸司	第16回微粒化シンポジウム	高電圧放電による燃料噴射と拡散燃焼の発生	平成19年12月	吉田幸司他	2007年度自動車技術会関東支部学術研究講演会	新燃焼方式の提案 -高電圧放電による拡散燃焼-	平成20年3月	吉田幸司他	日本機械学会 2008年度年次大会 No. 08-1	高電圧放電を利用した拡散燃焼に関する研究	平成20年8月	吉田幸司他	第46回燃焼シンポジウム	高電圧放電による燃料噴射と着火	平成20年12月	吉田幸司他	2008年度自動車技術会関東支部学術研究講演会	高電圧放電を利用した拡散燃焼に関する研究 -燃料性状及び分子構造が燃焼に与える影響-	平成21年3月								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
Koji Yoshida et al.	4th PACME	New Concept Combustion Method -The Diffusive Combustion Using Electrical Discharge-	平成19年8月																																									
Koji Yoshida et al.	Small Engine Technology Conference SETC2007	Study of Diffusion Combustion by Using the High-Voltage Electrical Discharge	平成19年10月																																									
吉田幸司	第16回微粒化シンポジウム	高電圧放電による燃料噴射と拡散燃焼の発生	平成19年12月																																									
吉田幸司他	2007年度自動車技術会関東支部学術研究講演会	新燃焼方式の提案 -高電圧放電による拡散燃焼-	平成20年3月																																									
吉田幸司他	日本機械学会 2008年度年次大会 No. 08-1	高電圧放電を利用した拡散燃焼に関する研究	平成20年8月																																									
吉田幸司他	第46回燃焼シンポジウム	高電圧放電による燃料噴射と着火	平成20年12月																																									
吉田幸司他	2008年度自動車技術会関東支部学術研究講演会	高電圧放電を利用した拡散燃焼に関する研究 -燃料性状及び分子構造が燃焼に与える影響-	平成21年3月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
なし			
(外部資金の獲得)			
なし			
(他の研究への発展)			
なし			
(その他)			
なし			

* 課題番号	個07-065
--------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 17 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 羽多野正俊



所属・資格 工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題	未知形状瓦礫撤去作業を行う小型レスキューロボットシステムの研究	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等	（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名	発表テーマ
	宮坂啓太・羽多野正俊	日本機械学会 2007 年度 年次大会	力センサを利用したレスキューロボット によるガレキ撤去作業に関する研究
	Masatoshi Hatano	SICE Annual Conference 2007	Research on Rescue Robots with Force Sensors on the Fingertips for Rubble Withdrawal Works
	Keita Miyasaka Masatoshi Hatano	SICE Annual Conference 2008	Research on Rescue Robots with Force Sensors on the Fingertips for Rubble Withdrawal Works
5	著書・雑誌論文	（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号
	なし		年月
			出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>なし</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p> <p>なし</p>			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>本研究成果を元にして、力情報を利用した探索・救出をおこなうレスキューロボットである「肘拘束を利用した超冗長マニピュレータ型レスキューロボット」の研究の一部に発展させることができた。</p>			
<p>(その他)</p> <p>なし</p>			

* 課題番号	個 07-066
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 2 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 桑 原 卓 雄



所属・資格 理工学部・航空宇宙工学科・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	ダクトドケットの保炎機構			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
桑原卓雄	44 th AIAA/ASME/SAE/ASEE Joint propulsion conference & Exhibit (米国航空宇宙学会)	Mass Transfer in the recirculation zone of Ducted Rocket	H20 年 7 月 22 日	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の (可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

0

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 塩 野 光 弘



所属・資格 理工学部・電気工学科 准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注: 該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	垂直軸型タービンを用いた再生可能エネルギー発電システムと系統連系技術			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
M.Shiono, K.Naoi, K.Suzuki	International Offshore and Polar Engineering Conference	Output Characteristics of Power Generation System from Tidal Currents for a Navigation Buoy	2007, 7	
石川,直井,塩野,柳平,武藤,鈴木	電気設備学会全国大会	静翼付抗力形多翼風車の解析～風車特性の計算法の検討～	2007, 9	
野本,直井,塩野,柳平,武藤,鈴木	電気設備学会全国大会	釧路灯台における円弧キャンパー翼垂直軸形風車を用いた風力発電装置の特性	2007, 9	
飯塚,卜部,直井,塩野,進藤,鈴木	電気学会電力・エネルギー部門大会	潮流発電システムにおける最適増速比および定格容量の検討	2007, 9	
野本,直井,塩野,柳平,武藤,進藤,鈴木	電気学会全国大会	明石海峡における灯浮標用潮流発電装置の特性	2008, 3	
直井,塩野,柳平,武藤,鈴木	電気学会全国大会	抗力形多翼風車において静翼が特性に及ぼす効果	2008, 3	
塩野	ターボ機械協会第 59 回総会後援会	ダリウス形水車による潮流発電装置について	2008, 5	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の(可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

*課題番号	個07-068
-------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 13 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 木原 雅巳



所属・資格 理工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	パケットセレクション方式によるホスト間高精度時刻同期技術の確立																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Arjulie John P. Berena and Masami Kihara</td> <td>IEICE Electronics Express</td> <td>An experimental analysis of packet train probe for a stable RTT measurement</td> <td>2007年12月</td> </tr> <tr> <td>Arjulie John P. Berena and Masami Kihara</td> <td>電子情報通信学会 2008年総合大会</td> <td>RTT PROBING WITH PACKET FILTER BASED ON INTER-ARRIVAL TIMES</td> <td>2008年3月</td> </tr> <tr> <td>Arjulie John P. Berena and Masami Kihara</td> <td>FFTF2008</td> <td>Clock Synchronization Algorithm for a DRM System Based on Location Discrimination</td> <td>2008年4月</td> </tr> <tr> <td>Arjulie John P. Berena, Masami Kihara, Naohisa Ohta and Sadayasu Ono</td> <td>ENC-GNSS 2008</td> <td>Location-based Authentication Scheme for a DRM System Using a Mobile Device</td> <td>2008年4月</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Arjulie John P. Berena and Masami Kihara	IEICE Electronics Express	An experimental analysis of packet train probe for a stable RTT measurement	2007年12月	Arjulie John P. Berena and Masami Kihara	電子情報通信学会 2008年総合大会	RTT PROBING WITH PACKET FILTER BASED ON INTER-ARRIVAL TIMES	2008年3月	Arjulie John P. Berena and Masami Kihara	FFTF2008	Clock Synchronization Algorithm for a DRM System Based on Location Discrimination	2008年4月	Arjulie John P. Berena, Masami Kihara, Naohisa Ohta and Sadayasu Ono	ENC-GNSS 2008	Location-based Authentication Scheme for a DRM System Using a Mobile Device	2008年4月																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
Arjulie John P. Berena and Masami Kihara	IEICE Electronics Express	An experimental analysis of packet train probe for a stable RTT measurement	2007年12月																																									
Arjulie John P. Berena and Masami Kihara	電子情報通信学会 2008年総合大会	RTT PROBING WITH PACKET FILTER BASED ON INTER-ARRIVAL TIMES	2008年3月																																									
Arjulie John P. Berena and Masami Kihara	FFTF2008	Clock Synchronization Algorithm for a DRM System Based on Location Discrimination	2008年4月																																									
Arjulie John P. Berena, Masami Kihara, Naohisa Ohta and Sadayasu Ono	ENC-GNSS 2008	Location-based Authentication Scheme for a DRM System Using a Mobile Device	2008年4月																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>国際出願番号 PCT/JP2007/074831 伝播遅延時間測定システム</p> <p>(外部資金の獲得)</p> <p>なし</p> <p>(他の研究への発展)</p> <p>平成20年度日本大学学術研究助成金基盤研究の基本技術となった</p> <p>(その他)</p>			

* 課題番号	個 07-069
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 11 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 萩原 俊紀



所属・資格 理工学部・物質応用化学科 准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	新規触媒への利用を目指した機能性カテナンの開発																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Manabu Yamazaki, Toshiki Hagiwara, Masahiro Sekiguchi, Takashi Sawaguchi, Shoichiro Yano</td> <td>Synthetic Communications / First Catenane Containing Phosphino Groups: A Step toward a Catenane Ligand.</td> <td>Vol. 38</td> <td>2008, Jan</td> <td>Taylor & Francis</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Manabu Yamazaki, Toshiki Hagiwara, Masahiro Sekiguchi, Takashi Sawaguchi, Shoichiro Yano	Synthetic Communications / First Catenane Containing Phosphino Groups: A Step toward a Catenane Ligand.	Vol. 38	2008, Jan	Taylor & Francis																						
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
Manabu Yamazaki, Toshiki Hagiwara, Masahiro Sekiguchi, Takashi Sawaguchi, Shoichiro Yano	Synthetic Communications / First Catenane Containing Phosphino Groups: A Step toward a Catenane Ligand.	Vol. 38	2008, Jan	Taylor & Francis																																

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
なし			
(外部資金の獲得)			
なし			
(他の研究への発展)			
なし			
(その他)			
なし			

* 課題番号	個 07-070
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 植松 英穂 印
 所属・資格 理工学部・教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 明治期における物理学教科書の内容についての調査および研究				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	田中啓介、植松英穂	日本科学技術史学会 第10回研究発表会・総会	第二次世界大戦中における「物象」の導入	2007年7月28日	
	田中啓介、植松英穂	第50回理工学部学術講演会	明治・大正・昭和の教科書における「物性」	2007年11月25日	
	植松英穂、田中啓介	日本物理学会 第62回年次大会	教科書「物象」について	2007年9月21日	
	田中啓介、植松英穂	日本物理学会第62回年次大会	明治・大正・昭和の教科書における「電気・磁気」について	2007年9月21日	
	田中啓介、植松英穂	第51回理工学部学術講演会	明治・大正・昭和の物理学教科書の動向	2007年12月1日	
	田中啓介	群馬大学明治期教科書研究会特別講演会	物理学教科書における物理用語の変遷	2008年3月6日	
	田中啓介、植松英穂	日本物理学会 第63回年次大会	明治・大正・昭和の物理学教科書における音・光	2008年3月24日	
	田中啓介、植松英穂	日本科学技術史学会第11回研究発表会・総会	明治期の物理学用語～『物理学術語和英仏独対訳字書』と明治45年の中等教育用物理教科書の比較～	2008年7月26日	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	田中啓介、植松英穂	物理学史ノート／物理学に見る物理学用語の調査	11	2008.9	物理学史通信刊行会

※ホームページ等での公開の 是 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			


* 課題番号	個 07-071
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 22 年 9 月 4 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 佐々木隆二 
 所属・資格 理工学部 教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。	
2 研究課題	グラフ、符号、散在型有限単純群				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	佐々木隆二	日本大学理工学部 学術講演会	M-matrices of the ternary Golay code and the conjugacy classes of the Mathieu groups M_{12} and M_{11}	平成21年11月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	佐々木隆二 (共著者 君塚磨)	日本大学理工学部理工学研究所 石研究ジャーナル	119	平成21年 12月	日本大学理工学理工学研究所

※ホームページ等での公開の 可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
<p>散在型有限単純群 McLaughlin 群 を研究する上で重要な McLaughlin グラフ ^の <u>コクリーク</u> の分類頁 (日本大学理工学部理工学研究所研究ジャーナル 120号 _{長122の} に、その一部を掲載予定) McLaughlin グラフの自己同型群を明示的に表現することになった。 (その他) (論文準備中)</p>			

【別紙様式 9】


*課題番号	個 07-072
-------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 20年 4月 20日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 桑 本 剛 

所属・資格 理工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	ボース・アインシュタイン凝縮体への光の保存及び再生																															
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																															
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>石丸昌史・桑本剛</td> <td>第52回理工学部学術講演会</td> <td>電磁誘起透過の実験研究</td> <td>平成20年11月29日</td> </tr> <tr> <td>國吉大輔・桑本剛ほか6名</td> <td>第52回理工学部学術講演会</td> <td>⁸⁷Rb ボース・アインシュタイン凝縮体の生成および諸特性の評価</td> <td>平成20年11月29日</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	石丸昌史・桑本剛	第52回理工学部学術講演会	電磁誘起透過の実験研究	平成20年11月29日	國吉大輔・桑本剛ほか6名	第52回理工学部学術講演会	⁸⁷ Rb ボース・アインシュタイン凝縮体の生成および諸特性の評価	平成20年11月29日																		
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																													
石丸昌史・桑本剛	第52回理工学部学術講演会	電磁誘起透過の実験研究	平成20年11月29日																													
國吉大輔・桑本剛ほか6名	第52回理工学部学術講演会	⁸⁷ Rb ボース・アインシュタイン凝縮体の生成および諸特性の評価	平成20年11月29日																													
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S. Tojo, A. Tomiyama, M. Iwata, T. Kuwamoto, T. Hirano</td> <td>Applied Physics B Lasers and Optics Collision dynamics between stretched states of spin-2 ⁸⁷Rb Bose-Einstein condensates</td> <td>93</td> <td>2008</td> <td>Springer</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	S. Tojo, A. Tomiyama, M. Iwata, T. Kuwamoto, T. Hirano	Applied Physics B Lasers and Optics Collision dynamics between stretched states of spin-2 ⁸⁷ Rb Bose-Einstein condensates	93	2008	Springer																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																												
S. Tojo, A. Tomiyama, M. Iwata, T. Kuwamoto, T. Hirano	Applied Physics B Lasers and Optics Collision dynamics between stretched states of spin-2 ⁸⁷ Rb Bose-Einstein condensates	93	2008	Springer																												

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(1) 松尾学術振興財団研究助成 研究課題：ボース・アインシュタイン凝縮体中への光情報の保存 助成額：2,990,000 円, 研究期間：2006 年～2007 年			
(2) 光科学技術研究振興財団助成 研究課題：極低温原子集団およびボース・アインシュタイン凝縮体による光保存 助成額：2,500,000 円, 研究期間：2008 年～2009 年			
(他の研究への発展)			
日本大学 N.プロジェクト「ナノ物質を基盤とする光・量子技術の極限追求」 研究分担者			
(その他)			

* 課題番号	個 07-073
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 20 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 菅野 元行



所属・資格 理工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	改質アスファルトの化学構造における劣化機構・リサイクル方法に関する研究																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>菅野 元行, ほか7名</td> <td>日本化学会第89春季年会</td> <td>野外暴露による改質アスファルトの劣化機構に関する研究</td> <td>平成21年3月</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	菅野 元行, ほか7名	日本化学会第89春季年会	野外暴露による改質アスファルトの劣化機構に関する研究	平成21年3月																						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
菅野 元行, ほか7名	日本化学会第89春季年会	野外暴露による改質アスファルトの劣化機構に関する研究	平成21年3月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Motoyuki Sugano, et al.</td> <td>Chemical Engineering Transactions/Thermal degradation mechanism of polymer modified asphalt</td> <td>16</td> <td>印刷中 (2009年5月)</td> <td>AIDIC Servizi S.r.l.</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Motoyuki Sugano, et al.	Chemical Engineering Transactions/Thermal degradation mechanism of polymer modified asphalt	16	印刷中 (2009年5月)	AIDIC Servizi S.r.l.																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Motoyuki Sugano, et al.	Chemical Engineering Transactions/Thermal degradation mechanism of polymer modified asphalt	16	印刷中 (2009年5月)	AIDIC Servizi S.r.l.																														

※ホームページ等での公開の (可・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 07-074
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月13日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 小 幡 義 彦



所属・資格 生産工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	<input type="radio"/> 奨励研究 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人) <input type="radio"/> 一般研究(共同) <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。
2 研究課題	乳化燃料の液滴燃焼過程の AE モニタリング法の開発			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
小幡義彦 他	日本非破壊検査協会	乳化燃料液滴燃焼過程の AE エネルギーによる評価	2008年11月	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 07-075
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 3月 30日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 新 妻 清 純



所属・資格 生産工学部 ・ 准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <u>一般研究(個人)</u> / 一般研究(共同) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	超磁歪材料の小型アクチュエータへの応用																																						
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 																																						
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新妻 清純</td> <td>プラズマ応用科学会</td> <td>窒化鉄の生成に及ぼす基板の影響</td> <td>2009.3.7</td> </tr> <tr> <td>新妻 清純</td> <td>Proc. 2008 Int. Symposium on Integration of MEMS and Intelligent Electronics</td> <td>Photo-catalytic Activity and Electrical Property of TiO₂ Thin Film Deposited by RF Sputtering</td> <td>2008.8.23</td> </tr> <tr> <td>新妻 清純</td> <td>電気学会</td> <td>光活性を有する TiO₂ 薄膜の電気的性質に及ぼす成膜ガス圧依存性</td> <td>2008.8.22</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	新妻 清純	プラズマ応用科学会	窒化鉄の生成に及ぼす基板の影響	2009.3.7	新妻 清純	Proc. 2008 Int. Symposium on Integration of MEMS and Intelligent Electronics	Photo-catalytic Activity and Electrical Property of TiO ₂ Thin Film Deposited by RF Sputtering	2008.8.23	新妻 清純	電気学会	光活性を有する TiO ₂ 薄膜の電気的性質に及ぼす成膜ガス圧依存性	2008.8.22																			
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																				
新妻 清純	プラズマ応用科学会	窒化鉄の生成に及ぼす基板の影響	2009.3.7																																				
新妻 清純	Proc. 2008 Int. Symposium on Integration of MEMS and Intelligent Electronics	Photo-catalytic Activity and Electrical Property of TiO ₂ Thin Film Deposited by RF Sputtering	2008.8.23																																				
新妻 清純	電気学会	光活性を有する TiO ₂ 薄膜の電気的性質に及ぼす成膜ガス圧依存性	2008.8.22																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 07-076
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 3月 26日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 保坂成司



所属・資格 生産工学部土木工学科・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <u>奨励研究</u> / <u>一般研究(個人)</u> / 一般研究(共同) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題 クリーンエネルギーを用いた湖沼浄化システム実用化に関する研究	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）	
	発表者名	学会名
	発表テーマ	発表年月
	吉見崇、大木宜章、保坂成司、四ッ柳卓也	日本大学生産工学部第40回学術講演会
	電解ユニット数によるフッ素電解処理効果の検討	平成19年12月
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）	
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名
	巻・号	年月
	出版社・発行所	

※ホームページ等での公開の (☑)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 07-077
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月16日

日本大学 総長 殿

氏 名 廣田 直行



所属・資格 生産工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人) / <input type="radio"/> 一般研究(共同) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	コミュニティ施設におけるロビー空間の機能変容																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廣田直行, 山口高嗣</td> <td>日本建築学会技術報告集/ コミュニティ施設の複合化事例にみる共用スペースの構成ー横浜市地区センターを対象としてー</td> <td>第15巻 第29号</td> <td>2009.02</td> <td>日本建築学会</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	廣田直行, 山口高嗣	日本建築学会技術報告集/ コミュニティ施設の複合化事例にみる共用スペースの構成ー横浜市地区センターを対象としてー	第15巻 第29号	2009.02	日本建築学会																						
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
廣田直行, 山口高嗣	日本建築学会技術報告集/ コミュニティ施設の複合化事例にみる共用スペースの構成ー横浜市地区センターを対象としてー	第15巻 第29号	2009.02	日本建築学会																																

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

課題番号	個 07-078
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21年 4月 13日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 津 野 孝



所属・資格 生産工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究/ <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人)/一般研究(共同)/総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																								
2 研究課題	光学活性金属錯体の創製とそれら異性化反応に関する研究																																											
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 																																											
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高橋勇統・津野孝・Henri Brunner</td> <td>錯体化学会</td> <td>(R_{Ru}, R_C)/(S_{Ru}, R_C)-[CpRu(Chairphos)Cl]の Cl/I 交換反応とそれら立体化学</td> <td>2008年9月20日</td> </tr> <tr> <td>上原隆志・Henri Brunner・津野孝</td> <td>錯体化学会</td> <td>光学活性三脚ピアノ椅子型モリブデン有機金属錯体[C₇H₇Mo(Prophos)X]のエピマー化</td> <td>2008年9月20日</td> </tr> <tr> <td>梅垣直央・津野孝・Henri Brunner</td> <td>錯体化学会</td> <td>光学活性[CpFe(Prophos)X]の異性化反応</td> <td>2008年9月21日</td> </tr> <tr> <td>高橋勇統・津野孝</td> <td>日本大学生産工学部学術講演会</td> <td>[CpRu(P-P)]⁺型 16 電子不飽和錯体の立体化学</td> <td>2008年12月6日</td> </tr> <tr> <td>上原隆志・津野孝</td> <td>日本大学生産工学部学術講演会</td> <td>光学活性有機モリブデン錯体の異性化</td> <td>2008年12月6日</td> </tr> <tr> <td>梅垣直央・津野孝</td> <td>日本大学生産工学部学術講演会</td> <td>光学活性[CpFe(Prophos)X]の異性化反応機構の検討</td> <td>2008年12月6日</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	高橋勇統・津野孝・Henri Brunner	錯体化学会	(R_{Ru}, R_C)/(S_{Ru}, R_C)-[CpRu(Chairphos)Cl]の Cl/I 交換反応とそれら立体化学	2008年9月20日	上原隆志・Henri Brunner・津野孝	錯体化学会	光学活性三脚ピアノ椅子型モリブデン有機金属錯体[C ₇ H ₇ Mo(Prophos)X]のエピマー化	2008年9月20日	梅垣直央・津野孝・Henri Brunner	錯体化学会	光学活性[CpFe(Prophos)X]の異性化反応	2008年9月21日	高橋勇統・津野孝	日本大学生産工学部学術講演会	[CpRu(P-P)] ⁺ 型 16 電子不飽和錯体の立体化学	2008年12月6日	上原隆志・津野孝	日本大学生産工学部学術講演会	光学活性有機モリブデン錯体の異性化	2008年12月6日	梅垣直央・津野孝	日本大学生産工学部学術講演会	光学活性[CpFe(Prophos)X]の異性化反応機構の検討	2008年12月6日												
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																									
高橋勇統・津野孝・Henri Brunner	錯体化学会	(R_{Ru}, R_C)/(S_{Ru}, R_C)-[CpRu(Chairphos)Cl]の Cl/I 交換反応とそれら立体化学	2008年9月20日																																									
上原隆志・Henri Brunner・津野孝	錯体化学会	光学活性三脚ピアノ椅子型モリブデン有機金属錯体[C ₇ H ₇ Mo(Prophos)X]のエピマー化	2008年9月20日																																									
梅垣直央・津野孝・Henri Brunner	錯体化学会	光学活性[CpFe(Prophos)X]の異性化反応	2008年9月21日																																									
高橋勇統・津野孝	日本大学生産工学部学術講演会	[CpRu(P-P)] ⁺ 型 16 電子不飽和錯体の立体化学	2008年12月6日																																									
上原隆志・津野孝	日本大学生産工学部学術講演会	光学活性有機モリブデン錯体の異性化	2008年12月6日																																									
梅垣直央・津野孝	日本大学生産工学部学術講演会	光学活性[CpFe(Prophos)X]の異性化反応機構の検討	2008年12月6日																																									
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																			
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								

※ホームページ等での公開の (可) / (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
<p>本研究はキレート環サイズに基づく 16 電子不飽和錯体の熱力学的安定性に関する結果を提示した。この結果とさらに別研究の共同研究者である Regensburg 大学 Prof. Brunner の過去の研究結果と総括して、新たな 16 電子不飽和錯体のピラミダル構造に対する新たな理論へと展開できることを見出した。この知見は、現在、アメリカ化学会発行の Accounts of Chemical Research 誌に Prof. Brunner と共著で投稿中である。</p>			
(その他)			
<p>現在本研究の一部は、生産工学部研究報告 A (理工系) に投稿中である。</p>			

課題番号	個 07-079
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月1日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 飯 沼 守 彦



所属・資格 生産工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input checked="" type="radio"/> 奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人) / <input type="radio"/> 一般研究(共同) / <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 組織成員の行動類型化に基づく組織診断システムの開発				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	飯沼守彦, 吉田典正	経営情報学会	組織における知識普及プロセスのモデル化	平成19年11月	
	飯沼守彦	実践経営学会 関東・東北支部合同研究会	エージェント・ベース・アプローチによる組織現象のシミュレーション	平成19年12月	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

(その他)

課題番号	個 07-080
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 13 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 亀 井 光 雄



所属・資格 生産工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目 奨励研究/一般研究(個人) 一般研究(共同)/総合研究 注：該当する種目を○で囲んでください。

2 研究課題
分散処理システムのペトリネットモデルと確率挙動解析

3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）
・研究代表者

・研究分担者（役割分担）

4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）

発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月
亀井光雄	日本大学生産工学部 第40回学術講演会	企業システムにおける XML・JSON とデータベース利用技術	2007年12月

5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）

著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表
新聞掲載

発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日

その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)

氏名	提出物	内容	数量

7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)

(知的財産権の取得)

(外部資金の獲得)

(他の研究への発展)

(その他)

課題番号	個 07-081
------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月16日

日本大学 総長 殿

氏 名 小澤 善隆



所属・資格 生産工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人) / 一般研究(共同) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																									
2 研究課題	指数関数型 Petrov-Galerkin 有限要素法による球形構造体と流体の連成解析																												
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																												
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ming-Chien HSU, Tetsukazu KIDA, Tadashi ABE Yoshitaka OZAWA</td> <td>コンクリート工学協会</td> <td>CONSIDERATION OF ASPECT RATIO IN ULTIMATE FLEXURAL LOAD-CARRYING CAPACITY OF CFS REINFORCED RC BEAM</td> <td>2008.11</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	Ming-Chien HSU, Tetsukazu KIDA, Tadashi ABE Yoshitaka OZAWA	コンクリート工学協会	CONSIDERATION OF ASPECT RATIO IN ULTIMATE FLEXURAL LOAD-CARRYING CAPACITY OF CFS REINFORCED RC BEAM	2008.11																	
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																										
Ming-Chien HSU, Tetsukazu KIDA, Tadashi ABE Yoshitaka OZAWA	コンクリート工学協会	CONSIDERATION OF ASPECT RATIO IN ULTIMATE FLEXURAL LOAD-CARRYING CAPACITY OF CFS REINFORCED RC BEAM	2008.11																										
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名／論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ming-Chien HSU, Tetsukazu KIDA, Tadashi ABE Toshiaki SAWANO, Yoshitaka OZAWA</td> <td>Theoretical and Applied Mechanics Japan / Modified Bending Moment Capacity Equation for CFS Reinforced RC Beam Compared with FEM and Theoretical Results</td> <td>Vol.57</td> <td>2008.6</td> <td>National Committee for IUTAM</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Ming-Chien HSU, Tetsukazu KIDA, Tadashi ABE Toshiaki SAWANO, Yoshitaka OZAWA	Theoretical and Applied Mechanics Japan / Modified Bending Moment Capacity Equation for CFS Reinforced RC Beam Compared with FEM and Theoretical Results	Vol.57	2008.6	National Committee for IUTAM															
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																									
Ming-Chien HSU, Tetsukazu KIDA, Tadashi ABE Toshiaki SAWANO, Yoshitaka OZAWA	Theoretical and Applied Mechanics Japan / Modified Bending Moment Capacity Equation for CFS Reinforced RC Beam Compared with FEM and Theoretical Results	Vol.57	2008.6	National Committee for IUTAM																									

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-082
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年4月15日

日本大学 総長 殿

氏 名 長尾 光雄



所属・資格 工学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	生体部位の粘弾性計測方法の確立と装置の開発																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長尾光雄, 横田理</td> <td>(社)計測自動制御学会東北支部第239回研究集会</td> <td>硬軟多層材料からなる下層材料の硬軟計測方法の試み</td> <td>平成19年11月16日</td> </tr> <tr> <td>長尾光雄, 他4名</td> <td>第50回日本大学工学部学術研究報告会</td> <td>筋組織緊張度評価方法の提案と試験装置の開発</td> <td>平成19年12月8日</td> </tr> <tr> <td>長尾光雄, 梅田良太, 横田理</td> <td>第50回日本大学工学部学術研究報告会</td> <td>非接触式測定法による粘弾性部位への適用</td> <td>平成19年12月8日</td> </tr> <tr> <td>長尾光雄, 梅田良太, 横田理</td> <td>第51回日本大学工学部学術研究報告会</td> <td>空気圧を利用した非接触式粘弾性測定法の提案</td> <td>平成20年12月6日</td> </tr> <tr> <td>Mitsuo Nagao, Osamu Yokota</td> <td>24th ISPE International Conference on CAD/CAM, Robotics & Factories of the Future</td> <td>Development of Intra-Articular Tension Measuring Instrument Used in Anterior Cruciate Ligament (ACL) Reconstruction</td> <td>2008,09,30</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	長尾光雄, 横田理	(社)計測自動制御学会東北支部第239回研究集会	硬軟多層材料からなる下層材料の硬軟計測方法の試み	平成19年11月16日	長尾光雄, 他4名	第50回日本大学工学部学術研究報告会	筋組織緊張度評価方法の提案と試験装置の開発	平成19年12月8日	長尾光雄, 梅田良太, 横田理	第50回日本大学工学部学術研究報告会	非接触式測定法による粘弾性部位への適用	平成19年12月8日	長尾光雄, 梅田良太, 横田理	第51回日本大学工学部学術研究報告会	空気圧を利用した非接触式粘弾性測定法の提案	平成20年12月6日	Mitsuo Nagao, Osamu Yokota	24 th ISPE International Conference on CAD/CAM, Robotics & Factories of the Future	Development of Intra-Articular Tension Measuring Instrument Used in Anterior Cruciate Ligament (ACL) Reconstruction	2008,09,30						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
長尾光雄, 横田理	(社)計測自動制御学会東北支部第239回研究集会	硬軟多層材料からなる下層材料の硬軟計測方法の試み	平成19年11月16日																															
長尾光雄, 他4名	第50回日本大学工学部学術研究報告会	筋組織緊張度評価方法の提案と試験装置の開発	平成19年12月8日																															
長尾光雄, 梅田良太, 横田理	第50回日本大学工学部学術研究報告会	非接触式測定法による粘弾性部位への適用	平成19年12月8日																															
長尾光雄, 梅田良太, 横田理	第51回日本大学工学部学術研究報告会	空気圧を利用した非接触式粘弾性測定法の提案	平成20年12月6日																															
Mitsuo Nagao, Osamu Yokota	24 th ISPE International Conference on CAD/CAM, Robotics & Factories of the Future	Development of Intra-Articular Tension Measuring Instrument Used in Anterior Cruciate Ligament (ACL) Reconstruction	2008,09,30																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Mitsuo Nagao, Ryota Umeda, Osamu Yokota</td> <td>Advances in CAD/CAM, Robotics and Factories of the Future/A Proposal a Contactless Measurement Method that Considers the Viscoelasticity</td> <td>24・1</td> <td>2008.12</td> <td>International Journal of ISPE, ISBN 978-4-9904503-1-1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Mitsuo Nagao, Ryota Umeda, Osamu Yokota	Advances in CAD/CAM, Robotics and Factories of the Future/A Proposal a Contactless Measurement Method that Considers the Viscoelasticity	24・1	2008.12	International Journal of ISPE, ISBN 978-4-9904503-1-1																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Mitsuo Nagao, Ryota Umeda, Osamu Yokota	Advances in CAD/CAM, Robotics and Factories of the Future/A Proposal a Contactless Measurement Method that Considers the Viscoelasticity	24・1	2008.12	International Journal of ISPE, ISBN 978-4-9904503-1-1																														

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>(1)出願番号：特願 2007-217366, 名称：物性測定装置及び物性測定方法, 出願年月日：平成 19 年 8 月 23 日 (2007), 発明者：横田理, 長尾光雄. (2)出願番号：特願 2007-217367, 名称：硬軟試験方法, 硬軟試験装置, 及び硬軟測定装置, 出願年月日：平成 19 年 8 月 23 日 (2007), 発明者：横田理, 長尾光雄. (3)出願番号：特願 2008-317506, 名称：脈波測定装置, 出願年月日：平成 20 年 12 月 12 日 (2008), 発明者：横田理, 長尾光雄.</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p> <ul style="list-style-type: none"> 種別：助成研究 (公募), 名称：平成 19 年度うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト共同研究事業 (一般枠), 研究開発題目：指診型筋肉組織緊張度評価測定装置の開発, 総額：487 万円, 期間：平成 19 年 7 月 18 日～平成 18 年 3 月 10 日, 主体：財団法人 福島県産業振興センター. 種別：助成金 (公募), 名称：平成 20 年度シーズ発掘試験, 研究課題番号：03-054, 研究題目名：クリープ回復を利用した粘弾性特性, 研究代表者：横田理, 共同研究者：長尾光雄, 総額：200 万円, 期間：委託研究契約締結日～平成 21 年 3 月 31 日, 主体：独立科学技術振興機構 JST イノベーションプラザ宮城. 			
<p>(他の研究への発展)</p> <p>他の生体部位の応用として椎間板硬度計測や膝前十字靭帯再建時の関節内張力計測, また, 筋疲労判定や他の疾患関連と筋肉硬軟判定計測が有効である点に分かり検討を進めたい. さらに, 生鮮食品や食品への鮮度管理や品質管理などへの応用が期待できるため計測手段の開発を検討したい.</p>			
<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示会出展：名称 (メディカルクリエーション ふくしま 2007), 主催 (財) 福島県産業振興センター・福島県, 会場 (ビックパレット福島), テーマ (生体部位の粘弾性計測システム開発に関する試作品), 2007.11.16-17. 展示会出展：名称 (メディカルクリエーション ふくしま 2008), 主催 (財) 福島県産業振興センター・福島県, 会場 (ビックパレット福島), テーマ (生体部位の粘弾性及び硬軟評価方法と計測装置の開発), 2008.11.20-21. 			

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 児 玉 大 輔



所属・資格 工学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="radio"/> 奨励研究 / <input type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input checked="" type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																													
2 研究課題	超臨界流体を含む混合物の高圧相平衡および溶解度測定																																																
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 児 玉 大 輔 ・研究分担者 (役割分担)																																																
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児玉 大輔ほか</td> <td>化学工学会第 73 年会</td> <td>酸・塩基型アミド系イオン液体の二酸化炭素吸収特性</td> <td>2008 年 3 月</td> </tr> <tr> <td>児玉 大輔ほか</td> <td>分離技術会年会 2008</td> <td>エチレン+2-メチル-1-プロパノール混合物の高圧相平衡</td> <td>2008 年 6 月</td> </tr> <tr> <td>児玉 大輔ほか</td> <td>分離技術会年会 2008</td> <td>超臨界二酸化炭素に対するフェロセンの溶解度</td> <td>2008 年 6 月</td> </tr> <tr> <td>児玉 大輔ほか</td> <td>分離技術会年会 2008</td> <td>[DMFH][TfN]に対する二酸化炭素吸収特性</td> <td>2008 年 6 月</td> </tr> <tr> <td>児玉 大輔ほか</td> <td>2008 Joint Symposium on Molten Salts</td> <td>CO2 Absorption Properties of N,N-Dimethylformamide-based Ionic Liquids</td> <td>2008 年 10 月</td> </tr> <tr> <td>児玉 大輔ほか</td> <td>第 31 回溶液化学シンポジウム</td> <td>プロトン性アミド型イオン液体の二酸化炭素吸収特性</td> <td>2008 年 11 月</td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	児玉 大輔ほか	化学工学会第 73 年会	酸・塩基型アミド系イオン液体の二酸化炭素吸収特性	2008 年 3 月	児玉 大輔ほか	分離技術会年会 2008	エチレン+2-メチル-1-プロパノール混合物の高圧相平衡	2008 年 6 月	児玉 大輔ほか	分離技術会年会 2008	超臨界二酸化炭素に対するフェロセンの溶解度	2008 年 6 月	児玉 大輔ほか	分離技術会年会 2008	[DMFH][TfN]に対する二酸化炭素吸収特性	2008 年 6 月	児玉 大輔ほか	2008 Joint Symposium on Molten Salts	CO2 Absorption Properties of N,N-Dimethylformamide-based Ionic Liquids	2008 年 10 月	児玉 大輔ほか	第 31 回溶液化学シンポジウム	プロトン性アミド型イオン液体の二酸化炭素吸収特性	2008 年 11 月																	
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																														
児玉 大輔ほか	化学工学会第 73 年会	酸・塩基型アミド系イオン液体の二酸化炭素吸収特性	2008 年 3 月																																														
児玉 大輔ほか	分離技術会年会 2008	エチレン+2-メチル-1-プロパノール混合物の高圧相平衡	2008 年 6 月																																														
児玉 大輔ほか	分離技術会年会 2008	超臨界二酸化炭素に対するフェロセンの溶解度	2008 年 6 月																																														
児玉 大輔ほか	分離技術会年会 2008	[DMFH][TfN]に対する二酸化炭素吸収特性	2008 年 6 月																																														
児玉 大輔ほか	2008 Joint Symposium on Molten Salts	CO2 Absorption Properties of N,N-Dimethylformamide-based Ionic Liquids	2008 年 10 月																																														
児玉 大輔ほか	第 31 回溶液化学シンポジウム	プロトン性アミド型イオン液体の二酸化炭素吸収特性	2008 年 11 月																																														
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																								
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																													

※ホームページ等での公開の 可 / 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二酸化炭素を選択的に分離・精製するための吸着剤 特願 2007-284585 			
<p>(外部資金の獲得)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 20 年度 JST シーズ発掘試験 (A: 発掘型) 2,000 千円 ・ 平成 20 年度私立大学等研究設備整備費等補助金 (私立大学等研究設備等整備費) 6,665 千円 			
<p>(他の研究への発展)</p>			
<p>(その他)</p>			

* 課題番号	個 07 - 084
--------	------------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 5 月 14 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 野田 工
 所属・資格 工学部・准教授



下記のとおり提出いたします。

1	種 目 <input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。			
2	研究課題 実解析的アイゼンシュタイン級数の漸近挙動に関する研究				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	野田 工	日本数学会	Eisenstein 級数の Laplace -Mellin 変換	2007 年 9 月 24 日	
	桂田 昌紀 野田 工	日本数学会	Differential actions on the asymptotic expansions of non-holomorphic Eisenstein series	2007 年 9 月 24 日	
	野田 工	京都大学数理解析研究所 研究集会	Laplace-Mellin transform of the nonholomorphic Eisenstein series	2007 年 10 月 18 日	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	野田 工	Kodai Math. J. / An explicit formula for the zeros of the Rankin-Selberg L-function via the projection of C^∞ -modular forms	13, No. 1	March 2008	東京工業大学

※ホームページ等での公開の (Ⓒ)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			


*課題番号	個07-085
-------	---------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成21年5月7日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 森 英 嗣 
 所属・資格 准 教 授

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2	研究課題 廃棄ガラスの新規なりサイクルプロセスに関する研究				
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します） ・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）				
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り，発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	森 英 嗣	日本セラミックス協会	アルカリ融解による廃棄ガラスからの二酸化ケイ素の回収プロセスープロセスの簡素化の検討ー	2007年9月13日	
	森 英 嗣	日本大学工学部 学術研究報告会	廃棄ガラスからの二酸化ケイ素の回収に関する研究	2007年12月8日	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	森 英 嗣	化学工業／廃棄ガラスからの二酸化ケイ素の回収プロセスー廃棄ガラスが着色ピンおよび鉛含有ガラスの場合ー	59	2008年5月	化学工業社

※ホームページ等での公開の 可 否 いずれかを○で囲んでください。否の場合は，理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
アルカリ融解と融解中の雰囲気ガスの影響に関する研究 (現在研究中)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-086
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 1 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 池田 弘子



所属・資格 歯学部・助教

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																												
2 研究課題	ラットの turning behaviour を指標とした大脳基底核機能の解明																															
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																															
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>池田弘子, 小谷彩子, 越川憲明</td> <td>第 118 回 日本薬理学会関東部会</td> <td>ラットの turning behaviour を指標とした mediodorsal thalamus GABA_A 受容体の役割の解明</td> <td>2008 年 6 月 7 日</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	池田弘子, 小谷彩子, 越川憲明	第 118 回 日本薬理学会関東部会	ラットの turning behaviour を指標とした mediodorsal thalamus GABA _A 受容体の役割の解明	2008 年 6 月 7 日																				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																													
池田弘子, 小谷彩子, 越川憲明	第 118 回 日本薬理学会関東部会	ラットの turning behaviour を指標とした mediodorsal thalamus GABA _A 受容体の役割の解明	2008 年 6 月 7 日																													
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ikeda H, Kotani A, Lee J, Koshikawa N, Cools AR</td> <td>Neuroscience / GABA_A receptors in the mediodorsal thalamus play a crucial role in rat shell-specific acetylcholine-mediated, but not dopamine-mediated, turning behaviour</td> <td>159・4</td> <td>2009 年 4 月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td>Ikeda H, Kotani A, Koshikawa N, Cools AR</td> <td>Neuroscience / Somatostatin receptors in the nucleus accumbens modulate dopamine-dependent but not acetylcholine-dependent turning behaviour of rats</td> <td>159・3</td> <td>2009 年 3 月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Ikeda H, Kotani A, Lee J, Koshikawa N, Cools AR	Neuroscience / GABA _A receptors in the mediodorsal thalamus play a crucial role in rat shell-specific acetylcholine-mediated, but not dopamine-mediated, turning behaviour	159・4	2009 年 4 月	Elsevier	Ikeda H, Kotani A, Koshikawa N, Cools AR	Neuroscience / Somatostatin receptors in the nucleus accumbens modulate dopamine-dependent but not acetylcholine-dependent turning behaviour of rats	159・3	2009 年 3 月	Elsevier													
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																												
Ikeda H, Kotani A, Lee J, Koshikawa N, Cools AR	Neuroscience / GABA _A receptors in the mediodorsal thalamus play a crucial role in rat shell-specific acetylcholine-mediated, but not dopamine-mediated, turning behaviour	159・4	2009 年 4 月	Elsevier																												
Ikeda H, Kotani A, Koshikawa N, Cools AR	Neuroscience / Somatostatin receptors in the nucleus accumbens modulate dopamine-dependent but not acetylcholine-dependent turning behaviour of rats	159・3	2009 年 3 月	Elsevier																												

※ホームページ等での公開の ()・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-087
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 _____ 松本 直行 _____



所属・資格 _____ 歯学部・助教 _____

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注:該当する種目を○で囲んでください。		
2	研究課題 <p style="text-align: center;">Organotypic culture 法を用いた口腔癌細胞株がリンパ管に及ぼす影響</p>				
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します) ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)				
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	大島光宏, 山口洋子, 松本直行ほか	第 51 回日本歯周病学会 学術大会	三次元培養法を用いた歯周炎モデルの開発(第1報) 実験系の確立.	2008年11月19日	
	Komiyama K, Matsumoto N, Nagai K et al.	14 th International Congress, International Association of Oral Pathologists.	COX-2 high expression in the oral squamous epithelium relate to keratinocyte differentiation but not for cell proliferation.	2008年6月23日	
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	Matsumoto N, Mukae S, Tsuda H et al.	APMIS / Relationship of LYVE-1 positive Lymphatic Vessel Density with Regional Lymph Node Metastasis in Tongue Carcinoma	投稿中		

※ホームページ等での公開の 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-088
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 1 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 _____ 武市 収



所属・資格 _____ 歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題	難治性根尖性歯周炎における蛋白糖化最終産物(RAGE)の発現について	
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）	
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）		
	発表者名	学会名	発表テーマ
	濱 真史、武市 収 他	第 128 回春季日本歯科保存学会	Nitric oxide は 歯 根 肉 芽 腫 中 の vascular endothelial cadherin を抑制し血管透過性に関与する
	武市 収 他	86 th general session of the IADR	Nitric oxide controls VE-cadherin-mediated vascular integrity in periapical granulomas
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）		
	著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号
	Hama S, Takeichi O <i>et al.</i>	Clinical and Experimental Immunology / Nitric oxide attenuates vascular endothelial cadherin-mediated vascular integrity in human chronic inflammation	154・3
			平成 20 年 12 月
			出版社・発行所
			Blackwell Science

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 1日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 大島 光宏

所属・資格 歯学部・専任講師



下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																														
2 研究課題	培養ヒト歯肉上皮細胞の amphiregulin 産生に及ぼす EGF の影響																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>竹之内優花, 大島光宏, 山口洋子, 江田昌弘, 小幡純, 安孫子宜光, 大塚吉兵衛, 伊藤公一</td> <td>第 51 回春季日本歯周病学会</td> <td>歯肉溝滲出液中の amphiregulin について</td> <td>2008 年 4 月</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	竹之内優花, 大島光宏, 山口洋子, 江田昌弘, 小幡純, 安孫子宜光, 大塚吉兵衛, 伊藤公一	第 51 回春季日本歯周病学会	歯肉溝滲出液中の amphiregulin について	2008 年 4 月																						
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
竹之内優花, 大島光宏, 山口洋子, 江田昌弘, 小幡純, 安孫子宜光, 大塚吉兵衛, 伊藤公一	第 51 回春季日本歯周病学会	歯肉溝滲出液中の amphiregulin について	2008 年 4 月																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ohshima M, Yamaguchi Y, Kappert K, Micke P, Otsuka K</td> <td>bFGF rescues imatinib/STI571 apoptosis of sis-NIH3T3 fibroblasts/ Biochem Biophys Res Commun</td> <td>381</td> <td>2009 年 3 月</td> <td>Elsevier</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Ohshima M, Yamaguchi Y, Kappert K, Micke P, Otsuka K	bFGF rescues imatinib/STI571 apoptosis of sis-NIH3T3 fibroblasts/ Biochem Biophys Res Commun	381	2009 年 3 月	Elsevier																				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Ohshima M, Yamaguchi Y, Kappert K, Micke P, Otsuka K	bFGF rescues imatinib/STI571 apoptosis of sis-NIH3T3 fibroblasts/ Biochem Biophys Res Commun	381	2009 年 3 月	Elsevier																														

※ホームページ等での公開の 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
<p>(知的財産権の取得)</p> <p>特願：2009-72185, 発明者：大島光宏, 山口洋子, 松本直行, 加藤光保, 発明の名称：「コラーゲン分解阻害剤のスクリーニング方法」(NUBIC 案件番号 11305)</p>			
<p>(外部資金の獲得)</p>			
<p>(他の研究への発展)</p>			
<p>(その他)</p>			

* 課題番号	個 07-090
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 27 日

日本大学 総長 殿

氏 名 小泉 寛 恭

所属・資格 歯学部・専任講師



下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="radio"/> 奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) / <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	金属接着性プライマーを応用した硬質レジン前装冠の摩耗挙動に関する研究																																			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	なし																											
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																	
なし																																				
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Komiyama K, Murakami M, Ogino T, Shimada M, Matsumura H, Koizumi H, Tanoue N</td> <td>International Chinese Journal of Dentistry/ Improved wear resistance of indirect composite-titanium joint on application of a metal priming system</td> <td>8・2</td> <td>June 2008</td> <td>Oral Health Association of Japan</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Komiyama K, Murakami M, Ogino T, Shimada M, Matsumura H, Koizumi H, Tanoue N	International Chinese Journal of Dentistry/ Improved wear resistance of indirect composite-titanium joint on application of a metal priming system	8・2	June 2008	Oral Health Association of Japan																						
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																
Komiyama K, Murakami M, Ogino T, Shimada M, Matsumura H, Koizumi H, Tanoue N	International Chinese Journal of Dentistry/ Improved wear resistance of indirect composite-titanium joint on application of a metal priming system	8・2	June 2008	Oral Health Association of Japan																																

※ホームページ等での公開の (可) (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
なし			
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
なし			
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
なし			
(外部資金の獲得)			
平成 20 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 課題番号 20592283 間接修復用コンポジットの耐摩耗性改善に関する研究			
(他の研究への発展)			
<p>本研究においては、硬質レジン前装冠の金属材料 (チタン合金)、前装材料として間接修復用コンポジット、金属表面処理材料として金属接着性プライマーを選択し、前装材—金属境界部に対する摩耗の影響を明らかにすることを目的とした。金属境界部の処理条件すなわち各種金属接着性プライマーを使用した場合の前装材—金属境界部の摩耗について明らかにした。その結果、境界部を持つ試料に対しては、プライマーを塗布することで前装材—金属境界部の微小破折が減少した。使用する歯科用金属と金属接着用プライマーの組み合わせで当該部位の微小破折の様相が異なった。以上の結果より金属接着用プライマーを前装材—金属境界部に使用することにより、臨床的に破折しにくい補綴装置を製作できる可能性をあることを示した。</p> <p>本研究の結果を礎として、硬質レジン前装冠のさらなる良好な予後を得るために間接修復用コンポジット単体に着目し、耐摩耗性改善を図るため各種重合条件の違いが耐摩耗性に及ぼす影響について、獲得した外部資金を用い現在研究中である。</p>			
(その他)			
なし			

* 課題番号	個 07-091
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成 19 年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 1 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 本吉 満



所属・資格 歯学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																
2 研究課題	矯正用ミニインプラントの安定性について一埋入後の骨接触率と動揺度の経時的変化について一																																	
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担) 																																	
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本吉 満</td> <td>第 67 回日本矯正歯科学会 大会 シンポジウム</td> <td>安全で確実な植立のために —リスクファクターの検討—</td> <td>2008 9</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	本吉 満	第 67 回日本矯正歯科学会 大会 シンポジウム	安全で確実な植立のために —リスクファクターの検討—	2008 9																								
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
本吉 満	第 67 回日本矯正歯科学会 大会 シンポジウム	安全で確実な植立のために —リスクファクターの検討—	2008 9																															
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Motoyoshi M et al.</td> <td>Int J Oral Maxillofac Surg / The effect of cortical bone thickness on the stability of orthodontic mini-implants and on the stress distribution in surrounding bone</td> <td>38</td> <td>2009 1</td> <td>Elsevier Ltd.</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Motoyoshi M et al.	Int J Oral Maxillofac Surg / The effect of cortical bone thickness on the stability of orthodontic mini-implants and on the stress distribution in surrounding bone	38	2009 1	Elsevier Ltd.																						
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																														
Motoyoshi M et al.	Int J Oral Maxillofac Surg / The effect of cortical bone thickness on the stability of orthodontic mini-implants and on the stress distribution in surrounding bone	38	2009 1	Elsevier Ltd.																														

※ホームページ等での公開の (可) 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊、夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 9】

* 課題番号	個 07-092
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 4 月 8 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 廣瀬 英晴



所属・資格 歯学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1	種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2	研究課題	鋳造用リングライナーのリング内での裏装位置と硬化膨張に対する緩衝効果			
3	研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・研究代表者 ・研究分担者（役割分担）			
4	学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
	発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
	廣瀬英晴, 平口久子, 坂口節子, 林 純子, 椎名芳江, 須藤史成, 八木原建司, 米山隆之	平成20年度秋期第52回日本歯科理工学会学術講演会	鋳造用リングライナーのリング内での裏装位置と硬化膨張に対する緩衝効果	平成20年9月21日	
5	著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
	廣瀬英晴, 平口久子, 坂口節子, 笹尾道昭, 八木原建司, 由井真司, 中島義雄, 米山隆之	歯科材料・器械/鋳造用リングライナーに関する研究 XVIII-リング内全面裏装したときの乾ライナーの緩衝効果-	28・4	2009.7.25	日本歯科理工学会

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

【別紙様式 9】

* 課題番号

個 07-093

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 5 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 清 水 武 彦



所属・資格 松戸歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。		
2 研究課題	マウス欠如歯に関与する染色体領域の特定			
3 研究組織（共同研究・総合研究のみ該当します）	・ 研究代表者 ・ 研究分担者（役割分担）			
4 学会発表等（要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。）				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文（著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。）				
著者・執筆者	著書名・雑誌名／論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
森田 渉, 姚 睿, 清水 武彦, 永田 敦子, 能美 誠, 韓 娟, 前田 隆秀	小児歯科学雑誌/ コンジェニックマウスを用いた欠如歯発症に 関わる遺伝要因の検討	45・5	2007年 12月	日本小児歯科学会

※ホームページ等での公開の 可・否） いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 5 日

日本大学 総長 殿

氏 名 大 口 純 人



所属・資格 松戸歯学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究			
2 研究課題	64列マルチスライス CT 血管造影と核磁気共鳴検査 (MR) による冠動脈描出の比較			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
大口純人, 井上文央, 左藤裕一, 長尾建, 坂巻達夫	第40回日本動脈硬化 学会	核磁気共鳴検査 (MR) と 64 列マルチスライ ス CT 血管造影による冠動脈描出の比較	2008 年 7 月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Yukiko Koizumi, Tomoko Kurita, Sumito Oguchi, Masahumi Yamamoto	Int J Oral-Med Sci / Nasal immunization with a 40-kDa Outer Membrane Protein Porphyromonas gingivalis Inhibits Atherosclerotic Plaque Accumulation Caused by Oral P. gingivalis Infection	6・3	2008 年 3 月	Research Institute of Oral Science

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-095
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 5 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 落 合 (栗田) 智 子



所属・資格 松戸歯学部・准教授

下記のとおり提出いたします。

1 種 目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。																																			
2 研究課題	Apo-E KO マウスの動脈硬化発症・進展における歯周病原細菌の関与																																				
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 																																				
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り, 発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																															
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																		
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Y. Koizumi, et al.</td> <td>INFECTION AND IMMUNITY / Nasal Immunization with <i>Porphyromonas gingivalis</i> Outer Membrane Protein Decreases <i>P. gingivalis</i>-Induced Atherosclerosis and Inflammation in Spontaneously Hyperlipidemic Mice</td> <td>Vol. 76 No. 7</td> <td>2008.7</td> <td>American Society for Microbiology</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>		著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Y. Koizumi, et al.	INFECTION AND IMMUNITY / Nasal Immunization with <i>Porphyromonas gingivalis</i> Outer Membrane Protein Decreases <i>P. gingivalis</i> -Induced Atherosclerosis and Inflammation in Spontaneously Hyperlipidemic Mice	Vol. 76 No. 7	2008.7	American Society for Microbiology																									
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																	
Y. Koizumi, et al.	INFECTION AND IMMUNITY / Nasal Immunization with <i>Porphyromonas gingivalis</i> Outer Membrane Protein Decreases <i>P. gingivalis</i> -Induced Atherosclerosis and Inflammation in Spontaneously Hyperlipidemic Mice	Vol. 76 No. 7	2008.7	American Society for Microbiology																																	

※ホームページ等での公開の 可 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は, 理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
山本正文、栗田(落合)智子	Medical Tribune	2007年10月	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 3 日

日本大学 総長 殿

氏 名 山 本 仁



所属・資格 松戸歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	奨励研究 / <u>一般研究(個人研究)</u> / 一般研究(共同研究) / 総合研究			
2 研究課題	間葉組織における歯の形態形成能獲得機構に関する研究			
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	<ul style="list-style-type: none"> 研究代表者 研究分担者 (役割分担) 			
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)				
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月	
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)				
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所
Yuka Higuchi, Hitoshi Yamamoto et al.	International Journal of Oral-Medical Sciences/ Comparison of the structures of tooth germs transplanted into the subcutaneous tissue or the kidney capsule of mice	7・1	2008年9月	Research Institute of Oral Science, Nihon University School of Dentistry at Matsudo

※ホームページ等での公開の (○)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-097
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 2 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 辻 本 恭 久

所属・資格 松戸歯学部・准教授



下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="radio"/> 奨励研究 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) <input type="radio"/> 総合研究			注：該当する種目を○で囲んでください。																																				
2 研究課題	光線力学的治療法を行った時のヒト歯肉培養細胞における mRNA の発現																																							
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																							
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																					
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Satoshi Matsui, Hitomi Takeuchi, Yasuhisa Tsujimoto, Kiyoshi Matsushima</td> <td>JOS/ Effect of Smads and BMPs induced by Ga-Al-As laser irradiation on calcification ability of human dental pulp cells</td> <td>50・1</td> <td>2008年1月</td> <td>日本大学歯学部</td> </tr> <tr> <td>Satoshi Matsui, Masahiro Kozuka, Jyunichi Takayama, Kana Ueda, Hiroko Nakamura, Ko Ito, Masaru Kimura, Yasuhisa Tsujimoto, Toshiro Kondoh, Takuji Ikemi, Kiyoshi Matsushima</td> <td>J Clin Biochem Nutr/ Stimulatory Effects of CO₂ Laser, Er:YAG Laser and Ga-Al-As Laser on Exposed Dentinal Tubule Orifices</td> <td>42</td> <td>2008年3月</td> <td>日本酸化ストレス学会</td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Satoshi Matsui, Hitomi Takeuchi, Yasuhisa Tsujimoto, Kiyoshi Matsushima	JOS/ Effect of Smads and BMPs induced by Ga-Al-As laser irradiation on calcification ability of human dental pulp cells	50・1	2008年1月	日本大学歯学部	Satoshi Matsui, Masahiro Kozuka, Jyunichi Takayama, Kana Ueda, Hiroko Nakamura, Ko Ito, Masaru Kimura, Yasuhisa Tsujimoto, Toshiro Kondoh, Takuji Ikemi, Kiyoshi Matsushima	J Clin Biochem Nutr/ Stimulatory Effects of CO ₂ Laser, Er:YAG Laser and Ga-Al-As Laser on Exposed Dentinal Tubule Orifices	42	2008年3月	日本酸化ストレス学会																					
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																				
Satoshi Matsui, Hitomi Takeuchi, Yasuhisa Tsujimoto, Kiyoshi Matsushima	JOS/ Effect of Smads and BMPs induced by Ga-Al-As laser irradiation on calcification ability of human dental pulp cells	50・1	2008年1月	日本大学歯学部																																				
Satoshi Matsui, Masahiro Kozuka, Jyunichi Takayama, Kana Ueda, Hiroko Nakamura, Ko Ito, Masaru Kimura, Yasuhisa Tsujimoto, Toshiro Kondoh, Takuji Ikemi, Kiyoshi Matsushima	J Clin Biochem Nutr/ Stimulatory Effects of CO ₂ Laser, Er:YAG Laser and Ga-Al-As Laser on Exposed Dentinal Tubule Orifices	42	2008年3月	日本酸化ストレス学会																																				

※ホームページ等での公開の 可 否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-098
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 19 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 橋 爪 英 城



所属・資格 松戸歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1 種目	<input type="radio"/> 奨励研究 <input checked="" type="radio"/> 一般研究(個人研究) <input type="radio"/> 一般研究(共同研究) <input type="radio"/> 総合研究	注：該当する種目を○で囲んでください。																																						
2 研究課題	培養ヒト歯髄細胞におけるプラスミノゲンアクチペータの活性化シグナル																																							
3 研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)																																							
4 学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発表者名</th> <th>学会名</th> <th>発表テーマ</th> <th>発表年月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>				発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																
発表者名	学会名	発表テーマ	発表年月																																					
5 著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください。)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>著者・執筆者</th> <th>著書名・雑誌名/論文名</th> <th>巻・号</th> <th>年月</th> <th>出版社・発行所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Hideki Hahsizume, Naoto Kamio, Sumi Nakao, Kiyoshi Matsushima and Hiroshi Sugiya</td> <td>Journal of Physiological science/ Protein kinase C synergistically stimulates tumor necrosis factor-α-induced secretion of urokinase-type plasminogen activator in human dental pulp cells</td> <td>58・1</td> <td>2008年2月</td> <td>Physiological Society of Japan</td> </tr> <tr> <td>N.Kamio, H.Hashizume, S.Nakao, K.Matsushima, H.Sugiya</td> <td>Biochemical Pharmacology/ Plasminis involved in inflammation via protease-activated receptor-1 activation in human dental pulp</td> <td>15・75</td> <td>2008年3月</td> <td>EISEVIER</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所	Hideki Hahsizume, Naoto Kamio, Sumi Nakao, Kiyoshi Matsushima and Hiroshi Sugiya	Journal of Physiological science/ Protein kinase C synergistically stimulates tumor necrosis factor- α -induced secretion of urokinase-type plasminogen activator in human dental pulp cells	58・1	2008年2月	Physiological Society of Japan	N.Kamio, H.Hashizume, S.Nakao, K.Matsushima, H.Sugiya	Biochemical Pharmacology/ Plasminis involved in inflammation via protease-activated receptor-1 activation in human dental pulp	15・75	2008年3月	EISEVIER																					
著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号	年月	出版社・発行所																																				
Hideki Hahsizume, Naoto Kamio, Sumi Nakao, Kiyoshi Matsushima and Hiroshi Sugiya	Journal of Physiological science/ Protein kinase C synergistically stimulates tumor necrosis factor- α -induced secretion of urokinase-type plasminogen activator in human dental pulp cells	58・1	2008年2月	Physiological Society of Japan																																				
N.Kamio, H.Hashizume, S.Nakao, K.Matsushima, H.Sugiya	Biochemical Pharmacology/ Plasminis involved in inflammation via protease-activated receptor-1 activation in human dental pulp	15・75	2008年3月	EISEVIER																																				

※ホームページ等での公開の (可) / (否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表/掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			

* 課題番号	個 07-099
--------	----------

注：課題番号を記入してください。

平成19年度 学術研究助成金成果物報告書

平成 21 年 3 月 5 日

日 本 大 学 総 長 殿

氏 名 鈴木英明



所属・資格 松戸歯学部・専任講師

下記のとおり提出いたします。

1	種 目	<input type="checkbox"/> 奨励研究 / <input checked="" type="checkbox"/> 一般研究(個人研究) / <input type="checkbox"/> 一般研究(共同研究) / <input type="checkbox"/> 総合研究	注: 該当する種目を○で囲んでください。
2	研究課題	経口免疫による Flt3 Ligand を用いた粘膜への抗原特異的免疫応答の誘導	
3	研究組織 (共同研究・総合研究のみ該当します)	・研究代表者 ・研究分担者 (役割分担)	
4	学会発表等 (要旨集の抜き刷り、発表原稿のコピー等及び発表したことがわかるものを添付してください)		
	発表者名	学会名	発表テーマ
5	著書・雑誌論文 (著書・雑誌・抜き刷り等を添付してください。コピーの場合は掲載されたことが客観的にわかるものを添付してください)		
	著者・執筆者	著書名・雑誌名/論文名	巻・号
	鈴木英明 他	日本歯科保存学雑誌/ 齲蝕原因菌に対する柿蒂抽出成分の抗菌効果	51・3
			年月
			2008年6月
			出版社・発行所
			日本歯科保存学会

※ホームページ等での公開の (可)・否) いずれかを○で囲んでください。否の場合は、理由書を添付して下さい。

6 その他の発表 新聞掲載			
発表／掲載者名	新聞名 (朝刊・夕刊)	掲載年月日	
その他 (ビデオ, CD, シナリオ, 写真, 舞台等)			
氏名	提出物	内容	数量
7 その他の成果 (下記のような成果があれば記入してください。)			
(知的財産権の取得)			
(外部資金の獲得)			
(他の研究への発展)			
(その他)			